

学習内容報告書 フォーマット

学校名	富山県立高岡高等学校
授業者	1年探究科学科担任、各教科担当者

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

科学探訪 in 富山 (海洋資源について)

1-2. 学年

1年 (3学期)

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・「科学探訪 in 富山」は、地域の自然・文化・企業・科学施設等の見学や調査を通して、地域への愛着を深めるとともに、人文社会科学・自然科学に対する興味や関心、理解を深める活動である。 ・4つのテーマの1つ、「海洋資源」について興味関心を持った20名が本単元に取り組んだ。 ・主体的なリサーチ・企画立案を通して、自主性や行動力、リーダーシップを育成する。 ・ミニリサーチの企画・実践・まとめ・発表を体験し、探究活動の基礎を学ぶ。
--

1-5. 単元設定の理由・ねらい

<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の見聞、経験、観察、考えたことをもとに、研修先を設定する。 ・富山県の魚、水産業、養殖について、探究する態度と能力を育む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見力、探究心、発想力。 ・情報収集や情報リテラシーなどのスキル。 ・レポートのまとめ方。 ・発表会でのコミュニケーション能力 (疑問力と質問力)。
--

1-7. 単元の展開 (全 15 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	事前研修	・グループは5人×4班とする。
2	・グループ分け、研修内容の企画立案を行う。	・教師は県内の水産に関わる施設を提示し、各グループに指導助言する。
3	・インターネットで施設の概要を調べる。 ・水産業に関するデータを読み込む。	

4 5	事前研修 ・日程、係の確認	・しおりの説明。
6 ～ 12	研修1日目 ・富山県水産研究所 ・ほたるいかミュージアム	・水産研究所 主任研究員小塚晃氏（本校OB）より、富山湾の魚、水産業の現状について講義を受け、施設内の見学（陸上養殖、海洋深層水を使った施設）をした。 ・ほたるいかミュージアムで、ほたるいかの発光のしくみなどについて説明を受け、ほたるいかに実際に触れる体験をした。
13 ～ 19	研修2日目 ・近畿大学水産研究所富山実験工場 ・新湊クルーズ（富山湾と海王丸、内川） ・氷見市漁業文化交流センター	・近畿大学水産研究所富山実験工場 家戸教授より、陸上養殖の取り組みについて講義を受け、施設内の見学（サクラマス、トラフグ、マアナゴ、タイの養殖施設）をした。 ・氷見市漁業文化交流センターでは、日本農業遺産に認定された「氷見の定置網」について、氷見市観光交流課 宮腰氏より講義を受け、施設内を見学した。
20 ～ 22	事後研修 ・個人レポート、グループでのレポート、発表用スライドを作成する。	
23	研修の発表会 ・各グループ10分間で、研修のまとめを発表し、質問を受ける。	・教師に参加を呼びかけ、質問も広く受ける。

感想

○この科学探訪を通して地元の魅力を再発見したと思います。一番インパクトに残ったことは第一産業について特に漁業について興味関心が高まったことです。実際に働いている方々を見て自分の触れることのない分野を知ることができたいい機会だったと思います。

○この科学探訪で、私は科学研究の大切さを知りました。今の自分たちが豊かで快適な生活を送ることができるのは科学者が苦勞して長年研究したからです。このことを理解して、感謝の気持ちをもって生活しなければいけないと思いました。

○僕はゲノム編集について特に興味深く感じました。人口増加が進む現代の農業ではローコストハイリターンのゲノム編集は必須であると思いました。しかし反対の声も世論では多い。この機会に社会の意識に対して耳を傾けてみたいと思います。

○今回の探訪を通して、自分がいかに地元『富山』について知らないかということに気がついたことが、一番衝撃的でした。ホタルイカの発光器官や定置網の歴史的背景等、日ごろの生活で私たちが持っている知識よりさらに一歩深く奥に踏み込んだ情報をたくさん得ることが出来ました。調査を続け、他県の人に自信をもって富山の魅力を紹介していきたい。

○多くの人が、富山県や環境をよりよくしようと頑張っていることがわかりました。氷見市漁業文化交流センターではARを利用した展示物やInstagramで、若者に氷見市をPRしていました。新湊クルーズには、観光に来た人々が楽しめるよう、親身になって対応しているガイドさんがいました。富山の観光は、その場所がもともと面白いものだから楽しく感じられる、というだけではなく、多くの人の思いや苦勞の上でできたからより楽しく感じられるのだと思いました。高校生になった今、違う視点で改めて富山を見つめることで、富山のいい点に気づくことができました。また、漁業や観光業に触れることで、自分の進路の選択範囲を広げることができたように思います。これからも、地元富山への愛着を深めていきたいです。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・伝えたい研修内容やメッセージとその根拠が、分かりやすく伝わるように、スライドを作成する。
- ・図や写真を効果的に使う。
- ・発表を聞き、積極的に質問をする。聴衆からの質問にわかりやすく説明する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">・会場を 2 つの教室に分け、海洋資源班 2 班がそれぞれその部屋でパワーポイントによる発表を行う。・写真や図表を効果的に取り入れてわかりやすい発表ができていた。 	<ul style="list-style-type: none">・密を避けて実施する・地学班、産業班、歴史班、海洋資源班それぞれが見つけた富山県内の社会的課題を共有できるよう、積極的な質問を促す。・質問の内容は評価しない。

3. 今回の活動の自己評価

- ・探究科学科 1 年 2 クラス 80 名を班分けするときに、「富山湾の魚を知ろう」という班のテーマに賛同した 20 名の中には、単に「魚が好きだから」「魚が美味しいから」というきっかけの生徒もいた。研修当日は、講義のあとの質問がほとんどなく、残念ながら受け身に見えた。しかし、学校に戻ってから研修内容をまとめる時には、グループで討議することで課題、疑問点が明らかになってきたようで、体験したことを踏まえ、そこから研究を深め、まとめることができていた。それぞれにグループで協力して、持続可能な漁業、漁業に従事する若者の定着、陸上養殖のあり方などについて考察し、今回の活動を通して、問題発見力、探究心、発想力を身につけたと考えられる。

4. 今後の課題

- ・例年、「科学探訪」は、関東方面での研修だったが、今年度は新型コロナウイルスのため、県内で新たに研修先を考えての実施となった。本校は、「ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバルリーダーの育成」という教育目標があるが、今回、科学探訪を県内で実施し、その中でも「海洋資源班」は学びを深め、SDGs の 14 の目標「海の豊かさを守ろう」にも関連して富山県の海洋資源の現状、課題を深く考えてくれた。次年度以降、「科学探訪」という行事がどう実施されるかは未定だが、探究科学科が 2 年で取り組む「課題研究」に今回の学びを生かして欲しい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。